

# 全日本語りネットワーク

2010. 4. 5 発行

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 11-1 JR 桐生駅構内

桐生市民活動推進センター

(Fax) 0277-47-4066 (振替) 00130-2-114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

## ニュース

### 「語り」の縮図としての「語りの祭り」

大島 広志 (東京都足立区・全日本語りネットワーク運営委員)

全国各地へ昔話を訪ね歩いて 45 年近くになります。この間、村々の伝承の語り手は激減し、今日、伝承の語り手を新たに見つけ出すことは本当に困難となりました。一方、都市を中心に図書館や小学校で昔話を語る新しい語り手は年々増え続けています。この国の子どもたちのために、新しい語り手が次々と誕生してくるのはうれしい限りです。

こうした状況をふまえて、私は今日の昔話の語り手を、<伝承の語り手><方言の語り手><共通語の語り手>と、大きく 3つのグループに分けられるのではないかと考えています。

<伝承の語り手>とは、祖父母・父母・村人から聞いた昔話を覚え、方言で語る語り手。

<方言の語り手>とは、子どもの頃に昔話を聞いて育ったわけではないけれども、方言を使うことができるので、昔話集に載っている昔話を方言で語る語り手。

<共通語の語り手>とは、絵本や再話した本から昔話を覚えて、共通語で語る語り手。

このうち最初に挙げた伝承の語り手は現在たいへん少なく貴重な存在ですが、あと 10 年も経つと皆無に近くなります。風前の灯なのです。昔話は元々その土地の言葉で語り継がれてきたものですから、伝承の語り手の消滅は、これまで何百年と伝えられてきた語りの姿そのものが消えてしまうということになります。

しかし、伝承の語り手の語りの姿を受け継いでいる方言の語り手がいる限り、日本の伝統的な語りは生き続けることができます。ですから、方言の語り手の存在はとても重要になります。私の知る限りでいえば、秋田・山形・岩手・新潟・山梨・岡山の各県では、方言の語り手の養成活動が行われています。伝承の語り手を復活させることはできませんが、方言の語り手は養成することができるのです。

まもなく、日本の昔語りは、方言の語り手と共通語の語り手の時代になります。両者が日本の昔語りの両輪となって、この国の昔語りがより一層活発になることを願っています。

さて、今秋の「第 10 回全日本語りの祭り in 新庄」のことになりますが、「祭り」には新庄市および隣接する最上郡真室川町の伝承の語り手が参加します。山形県や秋田県をはじめとする全国の方言の語り手も参加します。また、都市で語りをしている共通語の語り手もたくさん参加します。つまり、伝承の語り手と方言の語り手と共通語の語り手が大集合するのです。まさに日本の昔語りの縮図がここにあります。

現在語りをされている方、これから語り手を目指している方、「第 10 回全日本語りの祭り in 新庄」にお出かけください。さまざまな語りを聞き、そこからご自分の語り手への道を切り拓いていただきたいと思います。